

# こころの便り

第233号

令和元年8月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二  
株式会社新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kminami@shingu.co.jp  
電話 0791-751212

## 半グレ

来年の今頃は、東京オリンピックでにぎわっていることでしょう。世の中の動きは、その瞬間だけを見ても理解できず、長い目線で見ないと見えてこないことがたくさんあります。私はまだ三十代のころ、弊社はトラック台数を増やしながら大きな事故を何度も起こしていました。その解決は私の役割で、相手方との示談交渉を何度も経験しました。大企業のサラリーマンのお宅で何度も謝って、示談できると思いきや裁判に進展したことや今でも忘れられない京都での暴力団の親分との示談交渉。話は成立したものの会社の名前を書くのに手の震えが止まらず、エラそうにしていた若いころの自分が情けなくなつたのを覚えています。

何度も暴力団関係の示談を経験しましたが、今の時代は暴対法ができたことで表向きは安全になったように見えます。しかし、吉本興業のヤミ営業で表に出た問題は、静かに私たちの住む世の中に忍び寄ってきています。振り込め詐欺や薬物、金塊強奪、売春事件などに大学生や一般人が巻き込まれているという現実です。サラ金と呼ばれる高金利の金貸しがメガバンクの本業かのように変化して、良いことと

悪いことが見分けられなくなってしまいました。東大や京大の学生が犯罪者となって逮捕された事件も記憶に新しいところです。現代の犯罪は暴力団のような組織がなく、実行した若者たちがいくら逮捕されても、犯罪の張本人はよほどドジを踏まない限り捕まらない仕組みになっているのです。

マジメに生きている人の弱みにつけこんで、ちよつとだけという心の隙間に入り込むような手口で弱い者が被害者になっていきます。

新しい法律をいくら作っても逃げ道を塞ぐことなどできません。大変遠まわりかもしれませんが、今こそ、我が国はどんな国をめざすのかを見直す議論を進めなくては、真面目な人が知らないうちに犯罪者となるような変な国になってしまいかも知れません。もし、憲法改正が実現し、大人が未来に向けて善い憲法を生み出したとしても、世の中を良くするのは私達です。

お互いが世の中を良くするために、できることから実行する行動を始めたいりましょう。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

## 尋常小學校修身書 卷五 兒童用

### 第二十三課 誠實

清正は嘗て、石田三成等のざんげんで、秀吉の怒を受け、伏見の屋敷に謹慎してゐたことがありました。ところが、或夜大地震があつて、多くの家が倒れました。清正は秀吉の身の上を氣づかつて、部下の者を引きつれてまづ先に城にかけつけ、夜があけるまで、其の門を守つてゐました。秀吉はそのやうすを見て、清正の誠實に感心して、怒もおのづととけました。あくる日、清正を召出して、ざんげんのことを自分できかした。清正に罪のないことが明らかになつたので、却つて前よりも厚く信用するやうになりました。

秀吉がなくなつた後、其の子の秀頼はまだ幼くて大阪城にゐました。其の頃、徳川家康の勢が大そう盛になり、豊臣氏の恩を受けた者も次第に家康について、秀頼をかへりみる者が少くなりました。しかし、清正は相變らず秀頼の爲に心を盡し、大阪を通るたびに、きつと秀頼の安否をたづねました。家康はそれをきらつて、そつと人はいひふくめて、やめさせようとした。清正は「大阪を通りながら、秀頼公のごきげんを伺はないのは武士の道でない、又太閤の御恩を忘れてはすまない。」と言つて、聞きませんでした。

或時、秀頼が家康から京都まで面會に来るやうに言つて、招かれたことがありました。秀頼の母は家康に敵意のあることを氣づかつて、秀頼の京都に行くことに同意しませんでした。けれども清正は、この事で兩家の仲が悪くなつてはならないと考へて、「私が命にかけてお護り申しますから、ぜひお出を願ひます。」と言つてすすめました。それで秀頼は清正と一しよに京都へ行くことになりました。清正は秀頼が家康と對面する間はもちろん、往復の途中でも少しも側を離れず、秀頼の身を護つて、無事に大阪に歸りつきました。其の時、清正は、「今日はいさゝか太閤の御恩に報いることが出来た。」と言つて、涙をこぼして喜びました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いていただいております。